ゴッドファザーは手持ち無沙汰

バックウォルド傑作選 4

アート・バックウォルド　永井淳・訳

ゴッドファザーは手持ち無沙汰

バックウォルド傑作選４

アート・バックウォルド　永井淳・訳

ゴッドファザーは手持ち無沙汰

一九八四年四月一五日第一刷

定価　一五〇〇円

著者　アート・バックウォルド

訳者　永井　淳

発行者　半藤一利

発行所　株式会社文藝春秋
東京都千代田区紀尾井町三―二三
電話〒〇三―二六五―一二一一

印刷所　共同印刷

製本所　中島製本

万一落丁乱丁があればお取替えします

102

序にかえて

「あなたはどこでコラムのネタを仕入れるの？」そのブロンド美人は、クォーリティ・イン・モーテルでこの世のものとも思われぬすばらしい一夜をすごしたあとで、煙草を吸いながら質問した。

「そうくるだろうと思ったよ」と、わたしは答えた。「そんなことはどうでもいいじゃないか。せっかくの夜をあれこれ質問して台無しにすることはないと思うがね」

彼女はすねて頬っぺたをふくらませ、枕にパンチをくれた。「あなたはわたしをそれだけの女だと思ってるのね？　これじゃわたしの知ってるワシントンのほかの自称インテリたちと全然変りないわ。あなたの関心はわたしの体だけ。心なんかどうでもいいんだわ」

「そんなことはないよ。心にだって関心がある。だがきみを傷つけたくないんだ。わたしがどこでコラムのネタを仕入れるかを知ったらがっかりするだろう」

「そんな」彼女は涙をうかべながらいった。「わたしはあなたを愛してる、お仕事に関してどんな話を聞いたってその気持は変らないわ」

「わかったよ。では教えてあげよう。でもいいかい、きみが無理にいわせたんだよ」

「ええ」彼女はわたしを抱きしめた。「教えて」

わたしは勇気をふるいおこしていった。「新聞から盗むんだよ」
彼女は驚きと警戒心で目を丸くした。「いや、まさか！」
「嘘じゃない」わたしは苦い口調でいった。「新聞を読んで、第一面の記事をいただいて逃げる。ずっとその方法でやってきたんだ」
「でも新聞記事を盗むようなタイプには見えないけど」
「きみはコラムの執筆がどういうものか知ってるのかね？」と、わたしは軽蔑の口調でいった。「国務長官に電話を一本かければ、コラムのネタを提供してもらえるとでも思っているんだろう。ところがそうはいかないんだよ、ベイビー。ネタの仕入先について贅沢はいってられない。わたしは新聞からネタを仕入れることにしている。第一面に載る記事ならどんなやつだって、わたしが知恵をしぼってひねりだすよりはるかに面白いときているからね」
彼女の体がこわばり、肌が冷くなるのがわかった。「どうしてもっと前に教えてくれなかったの？」
「きみがこういう反応を示すに違いないと思ったからさ」わたしは寝返りを打って彼女に背を向けた。「きみがわたしの商売のことを詮索しはじめるまでは、われわれの仲はしっくりいっていた。そうさ、わたしは新聞から盗むし、テレビからも盗むよ。ダン・ラザーや、ジョン・チャンセラーや、バーバラ・ウォルターズからでさえコラムのネタを仕入れているよ」
「まさか、バーバラ・ウォルターズからも！」彼女はあいた口がふさがらないらしかった。
「この商売では、どんな人間でもいいカモになる。自分の子供たちからだって盗んだことがあるくらいだ。これでわたしがどういう男かわかったろう」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

「でも、なぜなの？」
「もちろん」わたしは彼女に向かって叫んだ。「そうすれば金が稼げるからさ――新聞の見出しを盗めばね。わたしはこの道に入ったとき、一生安月給に甘んじて暮す新聞記者にだけはなるまいと決心した。目立つ車や、きれいな女や、ファー・ロッカウェイの高級マンションが欲しかったんだ。人々に仰ぎ見られたかったんだ。自分の想像力じゃとても無理だとわかったから、新聞からネタをちょうだいしはじめたんだよ。はじめは全米ライフル協会や、トラック輸送組合や、スピロ・アグニューみたいな安物をいただいていた。
「だが、やがてウォーターゲートやジミー・カーターや、そして今じゃレーガン政権のような大物にも手を出すようになった。アル・ヘイグとサプライサイド・エコノミックス*もいいカモだ。いったんこの道に足を踏みいれると、もう後戻りはきかないんだよ」
彼女はベッドから出てゆっくり服を着はじめた。
「どこへ行くんだ？」と、わたしは美しい裸の背中を見ながらいった。
「わからないわ」彼女は呟いた。「どこだっていいじゃない。とにかくバーバラ・ウォルターズから盗むような男とはもう二度と寝る気がしないの」
「勝手にしろ」わたしは葉巻に火をつけた。「だが、だれがなんといってもコラムの書き方は変えんぞ」
服を着終ると、彼女はドアのほうへ行きかけた。把手に手をかけたところで振りかえった。「もうひとつだけ質問させて」
「いいとも、なんでも訊いてくれ」

「奥さんはあなたのやってることを知ってるの？」
「なにをいってるんだ？」と、わたしは叫んだ。「**きみがわたしの妻じゃないか！**」

＊ 需要サイドからではなく、供給サイドから経済を考える新しい経済学。いわゆるレーガノミックスにこの考え方が反映している。

ゴッドファザーは手持ち無沙汰　目次

第一部

『樹木』―ロナルド・レーガン作　13
ジャッキーがくる！　16
わたし書きますわよ　19
半額料金恐怖症　22
人間留守番電話　25
独身者に離婚なし　28
銀婚式の贈物　31
クラッツの告白　35
チアーズ！　38
豆とくるみ　41
減税競争　44
医者要らず　47
わが言葉尽きるとも　50
ゴッドファザーは手持ち無沙汰　53
亡命者にも愛を　56
消費者よご用心　59
解放された女性　62
割引料金　65
ガレージ・セール　68
スーパー・ボウルを見なかった男　71
「当選おめでとう！」　74
さようならミスター・ビッグ　77
さあ、深呼吸をしましょう　80
水爆ロビイ　83
医者も宣伝　86
原発事故対策講座　89
精神異常の新しい見分け方　92
待つ女　95
かわいそうなニュー・ジャージー　98

スターのサイン 101
SALT・BC 104
マスタード危機 107
金ほどよいものはない 110
高利貸の悩み 113
人体修理工場 116
S―Xの衰弱 119
偉大なる投資 122
レジャーで暇なし 125
宝石の真実 128
サニー・カリフォルニア 131
ママを呼んでくれ 134
ガレージ・セールの幻想 137
強気の商法 141
政治ツアー 144
落選者への手紙 147
現金払い持帰り 152
コーヒー、ティー、それともお話？ 155
新趣向の授賞式中継 158
夫婦間の訴訟 161
検査をしましょう 164
予算分捕り合戦 167
法廷のテレビ・カメラ 170
プレイボーイとインフレ 173
天地創造対アップルバウム 177
メイスの大流行 179
弾丸を禁止せよ 183
弁護士は道楽じゃない 186

第二部

人材求む 189
本年度の最優秀図書 192
患者のジレンマ 195
アイ・ラヴ・ニューヨーク 199
膝はどうする 202
結婚祝い 205
レンタ・プレーン 208
とても元気そう 211
サンドバッグで袋だたき 214
新しい航空会社 217
ディアブロ・キャニヨンの怪 221
ああ、そう！ 224
だれかいるかい？ 227
公民権の問題 230
コンサルタント稼業 233
チップ・ノイローゼ 237
CIAほどすてきな商売はない 240
黒人共和党員 243
医者は怒っている 247
イースタン航空の乗客サーヴィス 250
リフィング 253
ホワイト・ハウスのディナー 257
航空会社の料金戦争 260
悪夢の最新版 263
避難訓練 266
苛烈手当 270
ゲイツ症候群 273
「パレード大好き」 276
コンピューター・ウィドー 279

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

心理的手荷物　283
問題はウェストにあり　286
罪状取引の横行　288
人間喜劇　291
ネガティヴ・コマーシャル　294
すばらしいスポーツ　298
お茶とスパイ　301
ハイ・テクノロジーの共食い　304
スイトンとダグウッド・サンドイッチ――野坂昭如　335
医は防衛　308
自動車電話の功罪　311
明るいニュース　314
親子の断絶　318
大統領に叫ぶ　321
アメリカン・ヒーロー　324
ホレーショ・アルジャーの再教育　327
プレイボール　330

装幀　和田　誠

ゴッドファザーは手持ち無沙汰 〈バックウォルド傑作選4〉

第一部

『樹木』――ロナルド・レーガン作

レーガン陣営は本部で余裕綽々だった。ロニーは用意された原稿から脱線することもなく、すべては順調だった。やがて、突如として、青天の霹靂のごとく、レーガンは環境保護に関する自分の意見をアドリブで演説に折りこむことに決めた。ちょうど間の悪いことに亜硫酸ガス騒ぎが持ちあがった。

補佐官の一人が通信社のニュースを持ってとびこんできた。「ロニーがたった今大気汚染との戦いは終ったと宣言し、セント・ヘレンズ山の噴火を攻撃したぞ」

「わかったよ、冗談はそれまで。まだ選挙に勝ったわけじゃないんだぞ」

「冗談じゃないんだよ。彼はオハイオで、セント・ヘレンズ山が過去十年間の自動車の排気ガスを上まわる亜硫酸ガスを大気中に放出したといったんだ」

「自動車は亜硫酸ガスを出さないぞ」

「わたしに当るなよ。わたしがそういわせたわけじゃない」

「彼を電話に呼びだしてくれ……ロニー、今どこにいるんです？……ロサンゼルスらしいって？自分がどこにいるかわからないんですか？……スモッグがひどくてなにも見えないって？　ロニー、なんだってわれわれに断わりもせずに大気汚染問題になんか触れたんです？……セント・ヘレンズ山と大気汚染の比較がいいアイディアだということはわかりますよ。しかし、ロニー、あなたは誤解している。車が吐きだすのは酸化窒素や一酸化炭素です。セント・ヘレンズ山の亜硫酸ガスは人為的な汚染物質による大気への影響に比べたら物の数じゃないですよ……わかってますよ、あなたが科学者じゃないことはわかってますとも、ロニー――しかし国民は大統領が事実を確かめてから発言することを望んでいます。まだ飛行場が見えないって？……見えるのは汚れた雲だけ？……ロサンゼルスは大気浄化の戦いは勝利に終ったというあなたの発表を歓迎しないでしょうよ。

「ロニー、われわれがキュー・カードに書いて渡した問題についてだけしか発言しないという約束を忘れたんですか？……あなたが環境保護庁（イー・ピー・エー）を毛嫌いしてることは知ってますよ。だれだってEPAは好きじゃないが、ロサンゼルスが全然見えない状態でEPAを攻撃してたんじゃ、票になりっこありませんよ。

「それから電話のついでにききますが、なんだって樹木を攻撃しなきゃならないんです？　国民は樹木を愛しているんですよ……いや、あなたは木を攻撃しましたよ。窒素酸化物による汚染の九十三パーセントは植物に起因するといったじゃないですか。あなたは酸化窒素と亜酸化窒素を混同してるんですよ。木から出るのは亜酸化窒素のほうで、これは無害無毒なんです……べつにあなたに化学の講義をするつもりはないですけどね、ロニー。しかし敵はこういう失言につけこ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com